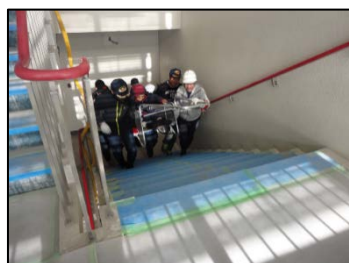


平成 28 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【新潟県佐渡市】

実施報告書
(概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan



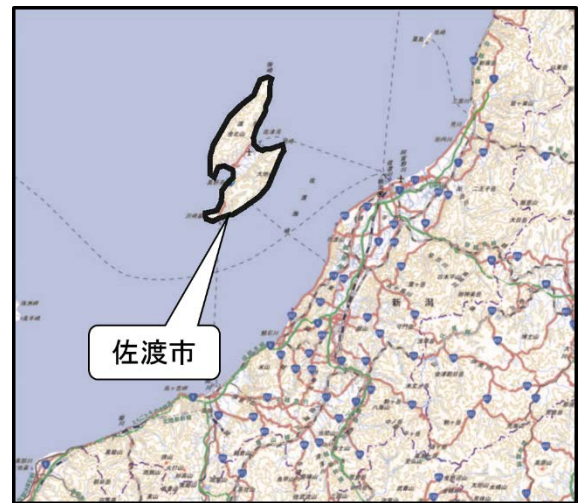
新潟県佐渡市について

佐渡市（さどし）は、新潟県西部に位置し、佐渡島全域を市域としています。

人口は約56,000人、総面積約856km²であり、山地が南北に2列あり、海に囲まれていることから、豊かな自然環境に恵まれ、農業・漁業・観光産業がさかんです。

佐渡市では、昭和39年の新潟地震において、両津で高さ2.0メートルの津波が発生し、両津市で400戸近くが浸水しました。

過去の経験から、現在佐渡市では、毎年佐渡市全域を対象に、多数の関係機関が参加する総合的な防災訓練をはじめとして、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：平成28年11月6日（日）午前9時00分、新潟県北方沖を震源とする強い地震が発生し、佐渡市全域を激しい揺れが襲い、最大震度6強を観測した。また、佐渡市沿岸には大津波警報が発表された。佐渡市は各関係機関に応援協力要請を行うとともに、速やかに避難所及び救護所を設置し、避難住民の受入れを開始した。

■実施日時：平成27年11月6日（日）9：00～12：30

市民参加訓練（シェイクアウト訓練、津波避難訓練など）	9：00～10：30
メイン会場での訓練	9：00～11：40
体験型・展示型訓練	9：00～12：15

■主催：内閣府、佐渡市

■参加者数：4,936名（※参加機関を含む。）

■参加機関：佐渡市、陸上自衛隊第30普通科連隊、航空自衛隊佐渡分屯基地、自衛隊新潟地方協力本部佐渡駐在員事務所、国土交通省北陸地方整備局、気象庁新潟地方气象台、第九管区海上保安本部新潟航空基地、佐渡海上保安署、東京税関新潟税関支署佐渡監視署、佐渡西警察署、佐渡東警察署、新潟県消防防災航空隊、新潟県ドクターヘリ、新潟県佐渡地域振興局、入間市、国分寺市、佐渡市社会福祉協議会、東北電力株式会社佐渡営業所、東日本電信電話株式会社、(株)ドコモCS、KDDI(株)北関東総支社、新潟県赤十字安全奉仕団佐渡市分団、佐渡市赤十字奉仕団、佐渡市消防団、各自主防災会、新潟県厚生連佐渡看護専門学校、新潟県建設業協会佐渡支部、新潟県LPガス協会佐渡支部、佐渡管工事組合、佐渡市下水道管路災害支援協会、あいびすアマチュア無線クラブ、ジャール南佐渡クラブ、NPO法人コメリ災害対策センター、ココ・コーライーストジャパン(株)佐渡支店、高坂防災(株)佐渡営業所、(有)コンドーシステム、(資)小松屋商店

事前ワークショップと当日の訓練内容

防災ワークショップ

訓練に先立ち、平成28年9月8日に、防災訓練に向けた住民への防災意識の向上を目的に、防災ワークショップを行った。前半は新潟地方気象台による津波に関する講義、後半は、津波ハザードマップを用い、安全な場所への避難、避難障害の有無、避難に向けた対策などについて議論した。

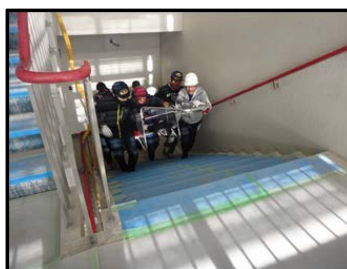
▼防災ワークショップの様子▼



09:00~10:30 市民参加訓練（シェイクアウト訓練、津波避難訓練）

佐渡市内の住民や関係機関が「自助」の備えとして、シェイクアウト訓練を実施した。各沿岸地域の自主防災会が指定している津波避難場所への避難訓練を行った。また、津波避難訓練後、要援護者の安否を市へ連絡する訓練も実施した。

▼津波避難訓練



▼避難行動要支援者安否確認訓練



9:00~11:40 メイン会場での訓練

防災訓練メイン会場（両津港おんでこドーム周辺）にて、倒壊家屋救出訓練や、市街地建物火災消火訓練、救援物資輸送訓練など、計9訓練を行い、参加関係機関間の緊密な連携を目的とした訓練を実施した。

▼倒壊家屋救出訓練



▼海上救出訓練



9:00~12:15 体験型・展示型訓練

一般の来場者向けに、起震車の試乗体験や、はしご車試乗体験、濃煙体験、応急手当講習会などの体験型訓練や、災害特殊車両や消防車、カメラ車を展示することで、住民に向けて防災意識の向上を促した。

▼はしご車試乗体験



▼災害特殊車両の展示

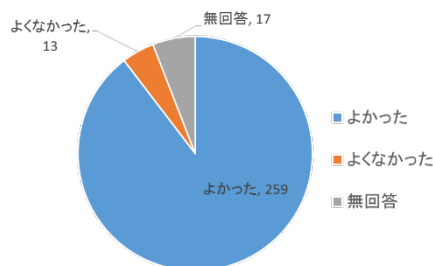


アンケート結果

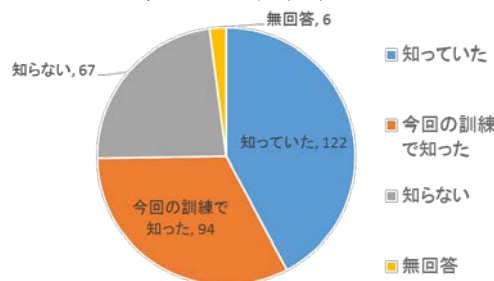
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取り組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：289人)

問 訓練に参加して、どう思いましたか？

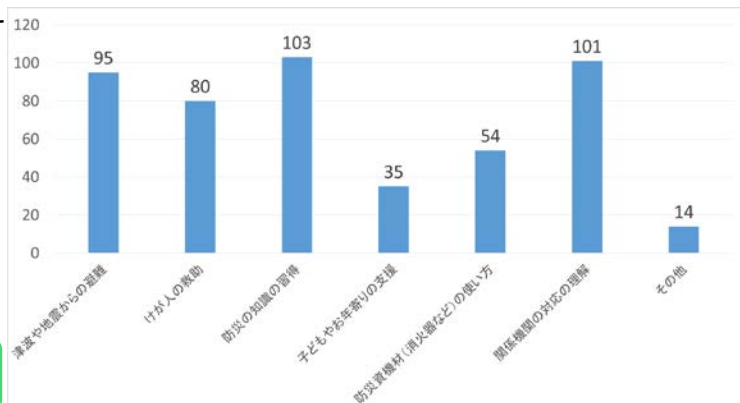
(回答数：289人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？ (回答数：289人)



問 訓練に参加して役に立ったことはどれですか？ (複数回答あり)



訓練の評価

訓練当日は、メイン会場での各種訓練と市内の沿岸部全域での市民参加型を同時に開始し、4,936名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。また、訓練実施後、メイン会場参加者へのアンケート結果のほか、参加機関等によるふりかえり会議を実施し、今回の訓練の開催成果や、今後の防災・減災対策や防災訓練に向けた知見を整理した。

- 地域での津波避難訓練では、参加者それぞれが最寄りの高い場所や避難に要する時間を把握し、一人ひとりが津波避難の状況と課題を認識できた。
- メイン会場に多くの防災関係機関が集合して訓練を実施したことにより、公助としての各機関の役割を参加者全員が効果的に学習できた。
- メイン会場での各種訓練は、参加者に対する普及・啓発効果だけでなく、当該機関としての初動対応を実践する機会にもなり、それぞれの行動要領等が検証できた。

また、今後の訓練や防災対策に向けて、次のような点が課題として明らかとなった。

- 津波避難訓練については、今後、避難行動要支援者への対応を考えていく必要がある。
- メイン会場での訓練を通じて、参加機関からは、佐渡市の離島特性を踏まえ、市内の関係機関のさらなる連携の重要性が指摘された。今後の訓練では、複数機関の連携による対応を実践・検証しながら、マニュアルの作成や訓練の継続、地域防災計画等への反映が望ましい。
- メイン会場周辺は、船舶利用客等の不特定多数の滞在者も多く、今後はこうした不特定多数の人々の避難誘導等の対応を考えていく必要がある。